

徳島県における 熊本地震への支援について

～災害医療調整本部（DMAT調整本部）の動き～

徳島県保健福祉部広域医療課 小山

熊本地震の概要

- ・前震 4月14日21時26分 M6.5 最大震度7
- ・本震 4月16日1時25分 M7.3 最大震度7

＜人的被害(H28.11.14現在)＞

死者数 145名(関連死含む)

負傷者数 2, 545名

＜物的被害(H28.11.14現在)＞

全壊家屋 8, 320棟

半壊家屋 31, 475棟

＜避難者数＞

最大で183, 882人



当時を思い返してみる(当方の業務について)

平成28年度 電子職員録詳細

所属名	広域医療課 事務分掌表・座席表	担当名	広域医療推進担当
住所/電話		担当電話	621-2186・621-2732

No	分掌事務	職名	氏名	内線	備考
3	1 担当内の総括に関すること 2 広域医療連携に関すること	課長補佐	小浜 由美子	2399	リーダー
4	1 広域医療連携に関すること 2 ドクターヘリコプターに関すること	主査兼係長	安藤 秀樹	2399	
5	1 災害医療に関すること 2 小児救急に関すること 3 広域医療連携(分掌事務)に関すること 4 医療の情報化に関すること	主任	小山 昌宏	2186	
5	1 広域医療連携(関西健康・医療創生会議、広域計画、国への提案)に関すること 2 医療施設のスプリンクラー等整備事業に関すること 3 地域医療再生基金事業の進行管理に関すること 4 産科医療確保支援事業に関すること	主任主事	福家 繁	2186	香川県職員(併任職員)
6	1 救急医療に関すること 2 広域医療連携(会計事務)に関すること 3 国庫補助金の取りまとめに関すること 4 医療施設の耐震化に関すること	主任主事	西野 洋史	2732	
7			三村 誠二		病院局中央病院医療局救急科部長本務

DMATの裏方

前年度まで産業廃棄物の担当。全然畑違いのところに来て、日々戸惑っていたところでした。
(今でも戸惑うことは多いですが)

当時を思い返してみる

前震（4月14日）

- ・残業中、前任者から電話。

「熊本で震度7の地震が起こった！

DMAT自動待機基準に該当する！」（自動待機基準って何？）

- ・訳も分からず壁にライティングシートを貼り、言われたとおりにクロノロ？を書き始める。

- ・統括DMATが続々と登庁し、携帯電話やパソコンで情報収集開始。

- ・自分たちもインターネットやテレビで情報収集。（メインはインターネット）

何がなんだかよく分からないまま、とにかくこの日は九州以外のDMATは出動しないとのことで、日付が変わった辺りで解散。

当時を思い返してみる

本震（4月16日）

- ・深夜、メールの着信音で目が覚める。（午前3時14分）

【緊急】DMAT待機要請について

都道府県災害医療担当者各位

本日16日午前1時25分ごろに熊本県熊本地方で発生した震度6強の地震に関し、全国のDMATに待機を要請いたします。

管下のDMATについて派遣の可否を広域災害・救急医療情報システムに入力されるようご指導方、よろしくお願い申し上げます。

厚生労働省DMAT事務局

この時点でやっと本震の発生に気づく。

慌てて県立中央病院の三村先生（統括DMAT）に電話。

回らない頭をなんとか回し、DMAT隊員のメーリングリストで第一報を入れ、県庁へ。

当時を思い返してみる

本震(4月16日)、そして.....

【緊急】DMAT派遣要請について

九州・沖縄ブロック、中国ブロック、四国ブロック、近畿ブロック管内
各府県災害医療担当者各位

本日4月16日午前1時25分ごろに熊本県熊本地方で発生した震度6強の地震に関し、
熊本県からDMATの派遣要請がありました。詳細は下記のとおりです。

記

1. 派遣要請都道府県: 次のブロックのDMATの派遣を要請いたします。
九州・沖縄ブロック、中国ブロック、四国ブロック、近畿ブロック
2. 参集拠点: 熊本県内において調整中です。
参集拠点については、決定次第、ご連絡いたします。
また、被災地への参集にあたっては、余震が継続しておりますので、
九州内での夜間の車両移動は控えるよう指導方お願いいたします。
3. 広域災害救急医療情報システムへ入力するよう指導方お願いいたします。

厚生労働省DMAT事務局

東日本大震災以来、5年ぶりのDMAT派遣へ。

DMATとは(既にご存じと思いますが)

(Disaster Medical Assistance Team、災害派遣医療チーム)

定義

* DMAT活動要領より

災害発生直後の急性期(概ね48時間以内)に活動を開始できる機動性を持った、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チーム

DMAT1隊の構成

医師1名、看護師2名、業務調整員1名の4名を基本

活動

本部活動、広域医療搬送、病院支援、地域医療搬送、現場活動、ロジスティクス

- ・現地の医療ニーズに応じて柔軟に活動する。
- ・医療チームの参集状況に応じ、初期の避難所救護所での活動のサポート等を考慮する。

派遣

被災地域の都道府県の派遣要請に基づくもの

(ただし、厚生労働省は、当分の間、被災地域の都道府県の要請がない場合であっても、緊急の必要があると認めるときは、都道府県等に対してDMATの派遣を要請することができる。)

活動は、都道府県、厚生労働省より派遣要請を受けたDMAT指定医療機関より派遣されることによる

DMAT隊員の待機

- 被災都道府県の要請に基づく待機
- 自動待機基準
 - ① 東京都23区で震度5強以上の地震が発生した場合
 - ② その他の地域で震度6弱以上の地震が発生した場合
 - ③ 津波警報(大津波)が発表された場合
 - ④ 東海地震注意情報が発表された場合
 - ⑤ 大規模な航空機墜落事故が発生した場合

CSCATTT (これも既にご存じの方が多いと思いますが)

MIMMS (Major Incident Medical. Management and Support) より

災害医療で常に念頭におくべき

◆メディカルマネジメント(医療管理項目)

C : Command & Control 指揮・統制

S : Safety 安全

C : Communication 情報伝達

A : Assessment 評価

◆メディカルサポート(医療支援項目)

T : Triage トリアージ

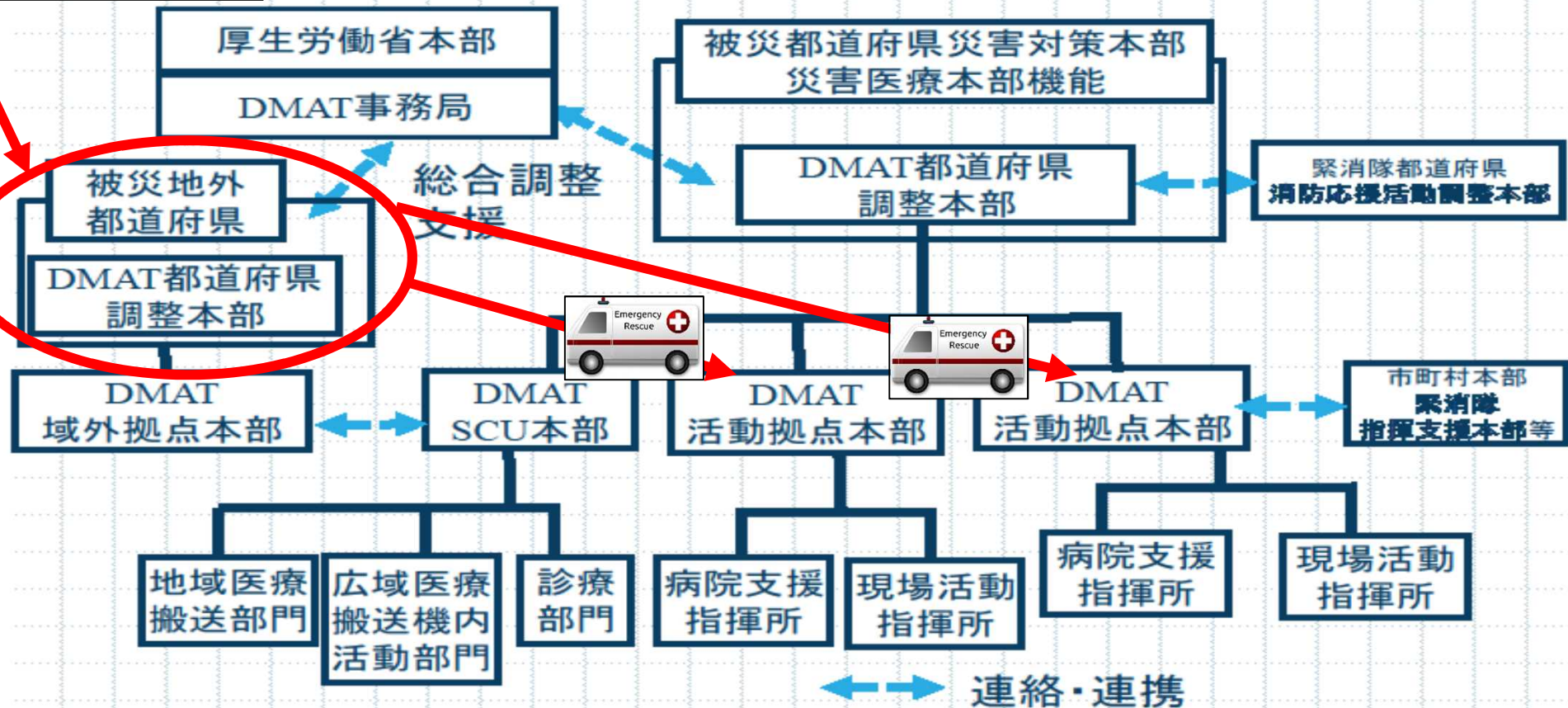
T : Treatment 治療

T : Transport 搬送

当時の徳島県の役割（下記は日本DMATの隊員養成研修資料より引用）

地外のDMAT調整
として、DMATの派
整を行う。

広域災害時DMATの指揮系統例



DMAT派遣調整

(平成28年4月16日～4月30日)

第1陣7班、第2陣3班、DMATロジスティクスチーム1班、計52名派遣)

1. どの病院のチームを派遣するか決定・派遣要請
2. 派遣のための物品準備(緊急車両通行証とか)
3. 現地に行くまでの道路状況調査
4. 宿泊施設の手配
5. 各種情報伝達(食糧事情や渋滞事情など)
6. 派遣先での活動状況把握
7. ドクターヘリ派遣の各種調整も
等々.....

できなかったこと、失敗したことも色々.....

(全国からは508班、2,000名以上のDMATが参集)



DMAT等の活動

1-2. ドクターヘリ

ドクターヘリ搬送患者数

	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	
熊本	9	3	5	3	4	24
福岡久留米	1		1			2
佐賀		4	0	2		6
長崎	3	3	2		3	11
宮崎	2				1	3
鹿児島	4	5				9
福岡和白	1	0	2	2		5
山口	2	2				4
広島		2	0			2
岡山	1					1
高知	1					1
徳島	1	1				2
兵庫豊岡	1	1				2
兵庫加古川	1	2				3
	27	23	10	7	8	75

300kmルール

その範囲を越
関西広域連合
ドクターヘリ派
養成

関西広域連合から
三機

ドクターヘリ統括本部長 町田 浩志 作成

日本学術会議主催公開シンポジウム 熊本地震・緊急報告会(平成28年5月2日)
日本集団災害医学会 森野一真

医療救護班派遣調整（計7班、59名派遣）

（平成28年4月21日～5月12日）

1. 医師会等、各団体・病院に医療救護班編制の依頼・調整
（東日本大震災の際と同様に、オール徳島での医療救護班派遣体制）
 2. 派遣スケジュールの決定
 3. 派遣のための物品準備（各種消耗品や備品の用意）
 4. 交通手段の手配（飛行機、鉄道、レンタカー）
 5. 宿泊施設の手配
 6. 派遣先での活動状況把握
 7. よろず相談窓口
- 等々.....

できなかったこと、失敗したことも色々.....



(参考)DMAT・医療救護班以外に

- DPAT(災害派遣精神医療チーム)

4月15日～5月26日まで、先遣隊から始まり、
10チーム、40名を派遣。(健康増進課)

- 保健師チーム

4月20日～6月29日まで、23班、70名を派遣。
(私も第22班のロジとして、6月22日～26日まで派遣されました)
(保健福祉政策課)

徳島県DMAT・医療救護班の活動

- ・現地医療関係者の支援（夜勤当直支援）
- ・避難所の医療ニーズ調査
- ・エコノミークラス症候群ホットライン担当 等々。

今回の災害は

「死者・負傷者に比して、倒壊家屋が多かった。

医療ニーズ＜保健・衛生ニーズ」

とされています。

「がれきの下の医療」を行う機会はなく、

より広い視点から、

現地の医療・保健・衛生・介護ニーズに対応していくこととなりました。

「全ては被災者のために」

できたこと

徳島県から派遣されたDMAT及び医療救護班が、全員無事に戻ってきたこと。

失敗したこと(色々ありますが.....)

- 緊急車両証と高速道路の無料通行証を混同してしまい、料金所でトラブル。
- DMAT第2班と医療救護班第1班の宿泊予約がうまく伝わっておらず、医療救護班の部屋が無い。

失敗したこと(色々ありますが.....)

一番深く反省したのはDMAT第2陣派遣の時。

第2陣は阿蘇地区へ行く予定になっていたが、
阿蘇は被害が大きいため宿泊場所の確保ができず、
先に入ったDMATは「病院に寝袋を敷いて寝ている」とのこと。

出発予定のDMAT隊員よりTEL。「阿蘇地区の宿泊場所は？」
小山「確保に向けて努力しているが、困難が予想される。
前のチームは寝袋で寝ており、第2陣も寝袋で寝てもらうことになるかも」
(直後に病院長より電話)「宿泊場所が確保出来ないとのことで、
隊員が不安に思っているようだ。何とかならないか？」
→後方から被災地に入るDMATを支援するのが仕事なのに、
支援すべき相手を不安にさせてしまった……。
(結局、宿は確保出来ましたが、しばらく落ち込んでいました)

課題と思ったこと(その1)

情報不足

→DMAT派遣に必要な情報がなかなか取れなかった。

(熊本県内の道路の被災情報とか)

→情報源が一般の報道・Webサイトや、
先行して現地入りしたDMATのみ。

徳島県独自の情報源の整備ができないか。

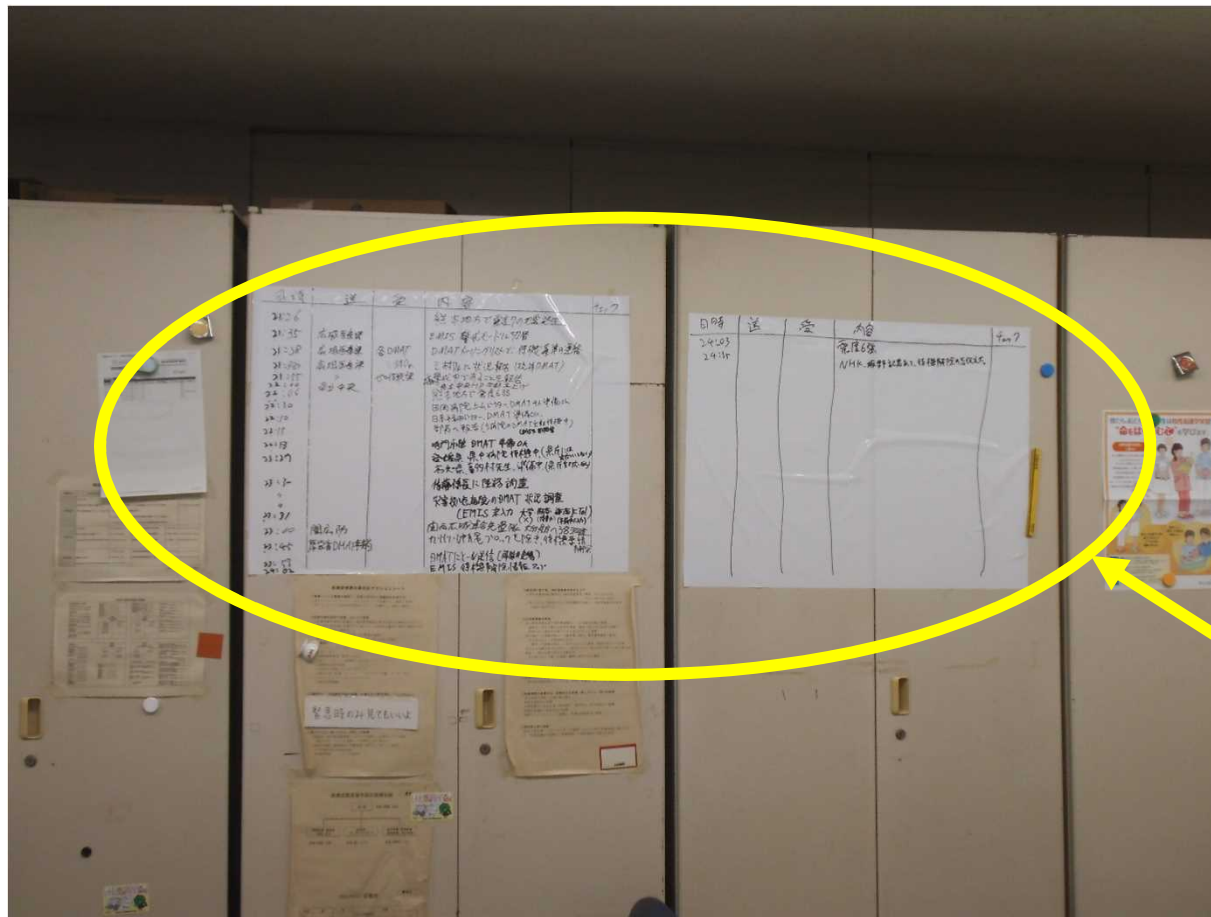
(人工衛星撮影画像の収集(緊急撮影)・分析を委託とか)

EMIS(広域災害救急医療情報システム)の、
さらなる有効活用も。

課題と思ったこと(その2)

人手不足

前震の頃の課内風景 (良い写真がありませんでした)



情報量はこのくらい

本震後(4月16日19時頃)



本震後(4月16日19時頃)



本震後(4月16日19時頃)



膨大な情報処理

通常業務はストップ

短期処理が必要
事務が大量に

今回はなんとかあったけど.....

災害医療を担当する広域医療課の人員は8名。

→通常業務をほとんどストップさせて災害対応にあたったが、夜勤対応や事務処理が追いつかず。

前任者、前々任者と隣の医療政策課、

それに統括DMATやDMAT業務調整員の方の手も借りて、なんとか日々こなしていったような状況。

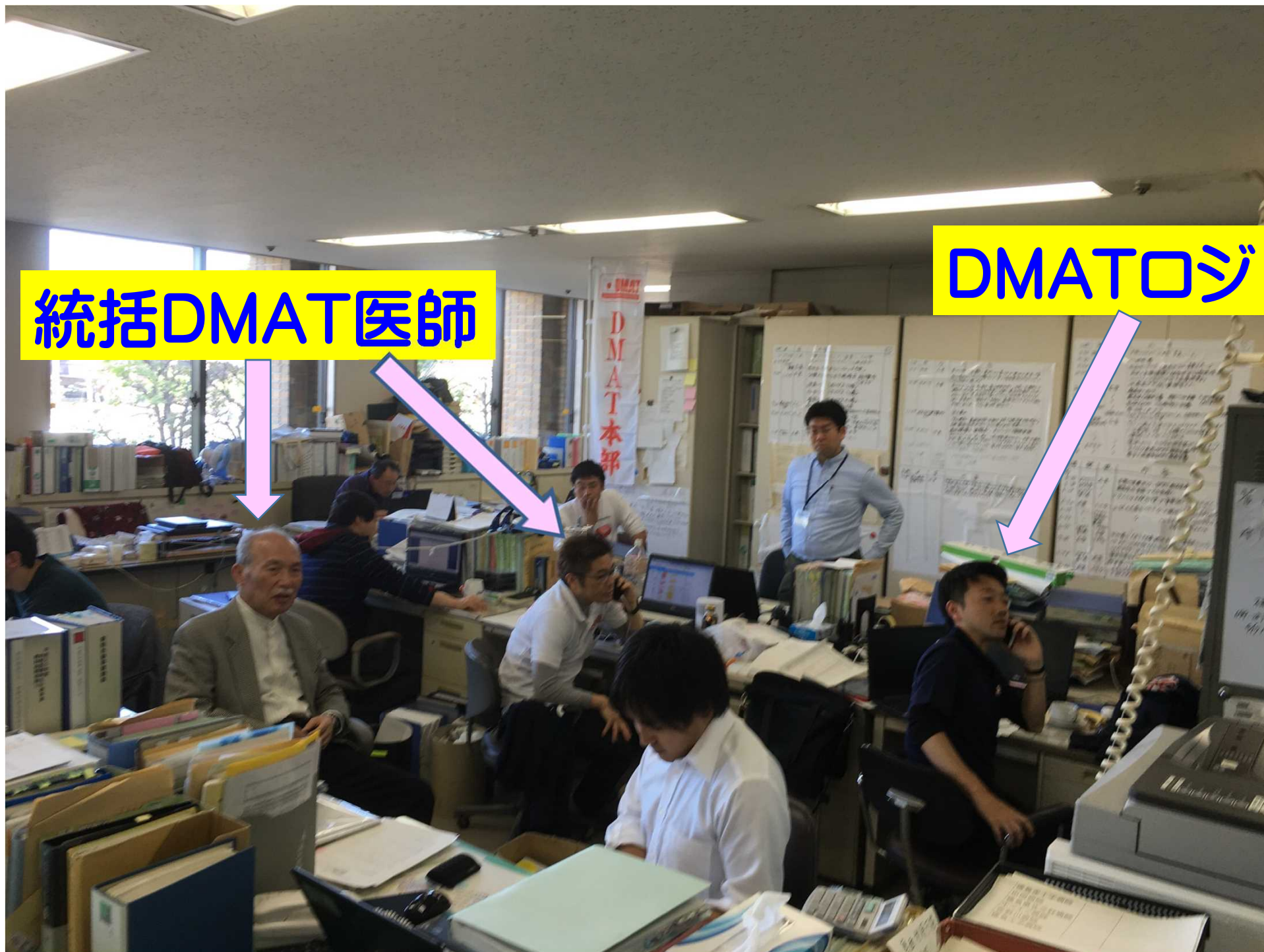
(締切りまでに昨年度の支払いができて本当に良かった)

もしも年度末のタイミングだったら。もしも地震の規模がもっと大きく、より多くの応援が必要とされていたら。

色々と破綻していたかも.....。

統括DMAT医師

DMATロジ



熊本地震派遣を経験して、いろいろ大変だったなあ、と思いますが。

これが、本県が被害を受けて、他県から応援を受ける状況になれば。

大変さは、今回の比ではありません。

南海トラフ地震が発生したら、

企業・行政・住民の全てで挑む「総力戦」になります。今ここにいる皆様も、今まで培った経験と人脈を総動員して災害に挑むことになるでしょう。

来たるべき南海地震対策に備えて必要なものは

色々あると思いますが、今回感じたのは「笑顔」。

笑顔？

- ・被災者を支援している現地の人たちも、同様に被災者であること。
- ・他県から支援に入った人たちも、被災地で多大なストレスを抱えることがあること。

継続的な被災者の支援のためには、支援者が「**時には笑えるくらいの**」身体・精神的余裕を持つことが重要ではないか。

例えば、支援者が何日も徹夜し、過労で倒れてしまうと、支援体制が手薄になったツケは被災者に回る。

支援者の休息も考慮した、継続可能な災害時体制の構築を。

→各機関においても、是非BCP(事業継続計画)の策定と訓練を！

最後に

- ・早朝の質問の電話に快く応じてくださった、徳島西警察署のA課長
- ・（結果的に発行はかなわなかったけど）朝早い依頼にも関わらず、緊急車両通行証の発行のために動いてくれた、阿波吉野川警察署、美馬警察署の方々
- ・書類の不備があったのにDMATの車両を通してくれた、NEXCO西日本様
- ・急なキャンセルにも関わらず、「こんな時だから」と無料で対応してくれた、HotelAZ佐賀鳥栖店様
- ・長期に渡って様々な要望に対応してくれた阿蘇内牧温泉大観荘様
- ・（結果的に借りるに至らなかったけど）現地派遣用の携帯電話レンタルについて、無料でのレンタルを申し出てくれたKDDI(株)四国支社様
- ・素早い携帯電話レンタルに対応してくれたGSM Rentafone pty Ltd.日本支店様
- ・無茶な物品購入・素早い保険加入に対応してくれた生協の皆様と、その納入業者の皆様
- ・タイトな納期の各種物品購入に対応してくれた(株)金剛様、(株)ユニットコム様、三和メディカル(有)様、(有)三谷薬局様、(株)大一器械様、(株)大草ゴム本店様
- ・医療救護班の派遣の際に航空券等の手配をしていただいた(株)近畿日本ツーリスト中国四国徳島支店様
- ・医療救護班最終の車両引き上げの際、特別な配慮をしてくださったオーシャントランス(株)様
- ・医療救護班引き上げの際、社員旅行中だったのに物資引き上げを担当してくれた(有)引越センター丸一様
- ・タイトな日程での資金前渡を処理してくれた会計課の方
- ・医療救護班が持参する文具類をかき集めるのに協力してくれた県庁内各課の方
- ・AEDを無償で貸してくれた徳島市医師会様 etc、etc.....

我々はDMATや医療救護班の裏方を勤めましたが、その更に裏で、我々を支えてくれた方々が数多くいました。

その方たちの協力が無ければ、
災害派遣の業務は困難を極めていたでしょう。

最後になりましたが、派遣に御協力いただきました看護協会の皆様方に改めて感謝申し上げますとともに、熊本の一日も早い復興をお祈りします。